

機械器具 58 整形用機械器具
一般医療機器 脊椎手術用器械 JMDNコード 70963001

Axon手術器械セット

【警告】

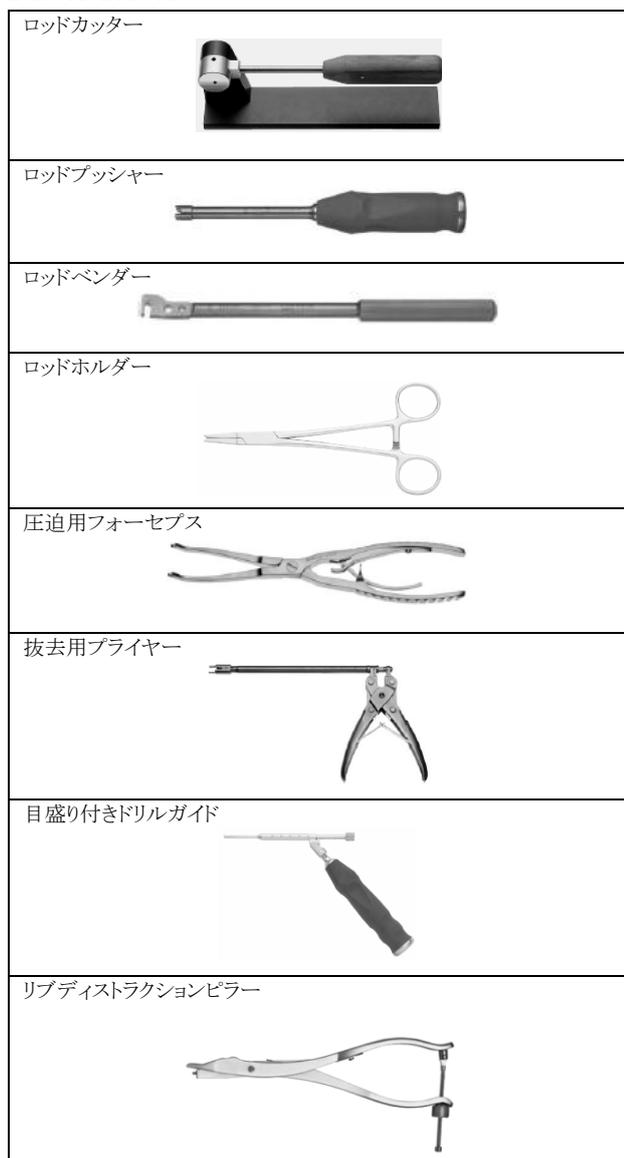
ドリル先は、「使用上の注意」を熟読したうえで適正に使用すること。適正に使用しない場合、折損を生じることがあるので十分注意すること。

【形状・構造及び原理等】

- 本品は、脊椎固定術等の脊椎手術のために用いる手動式の手術器械である。
- 本品は、再使用可能である。
- 本添付文書に該当する製品(販売名)については包装表示ラベル又は本体に記載されているので確認すること。

アライメントツール	
アングルドリルガイド	
キルシュナーワイヤー	
スクレイドライバー	
スクレイドライバー先	
スプレッター	
スリップスリーブ	
スレッド付ホールディングスリーブ	
タップスリーブ	
タップ先	
デブスケージ	

トランスコネクター	
ドリルガイド	
ドリル先クイック型	
パースエーダー	
ハンドルクイック型	
プレートロッドカッター	
ペディクルオウル	
ペディクルサウンダー	
ペディクルプローブ	
ペディクルマーカ	
ベンディングプライヤー	
ホールディングスリーブ	
リーマー	



【使用目的又は効果】

脊椎固定術等の脊椎手術のために用いる。

【使用方法等】

1.使用前

- (1)各製品が正常に動作することを確認すること。
- (2)滅菌後は無菌的に操作すること。
- (3)本品は未滅菌品であるので、使用に先立ち次の条件で高圧蒸気滅菌してから使用すること。

＜推奨する滅菌条件＞

高圧蒸気滅菌(プレバキューム型)

温度	時間
132℃	4 分間
134℃	3 分間

温度が 138℃を超えないようにすること。

2.使用時

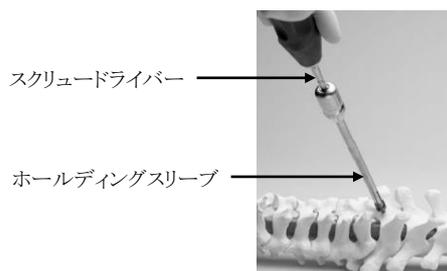
一般的な使用方法

- 本品の使用方法は、「脊椎手術用器械」の一般的な使用手順による。

＜主たる製品の使用例＞

(1)スクリュー挿入時

スクリュードライバー、ホールディングスリーブを用いて、適用部位にスクリューを挿入する。



3.使用後

- (1)外科手術用器械は付着した血液等を除去するため、使用後、速やかに洗浄を実施すること。付着した血液等を乾燥させてしまうことにより、通常の洗浄過程で除去することが困難となる場合がある。血液や組織片等が十分除去されていない状態での滅菌操作や温水での洗浄操作により、タンパク等が変性し、通常の洗浄過程での除去が困難となる場合がある。
- (2)手術終了後は、各製品を清潔な状態になるまで洗浄・滅菌を行い、収納ケースへ戻すこと。

4.使用方法等に関連する使用上の注意

- (1)使用する際には必ず当社推奨の手術器具を使用すること。また、傷をつけないこと。
- (2)ドリル先で穿孔する時は以下の行為に注意すること。
以下の行為は骨内を穿孔しているドリル先に過度の負荷をかけることになり、破損する恐れがある。
1)ドリル先で骨を穿孔するときは、ドリリング中に穿孔方向が変わったり、ドリル先がたわむことがないように十分に注意すること。[ドリル先に過負荷がかかり破損する恐れが生じる。穿孔方向の変更やドリル先のたわみを避けるため、ドリリング中に、同時に整備を行うことはしないこと]。
2)ドリル先で穿孔するときは途中で止めることなく穿孔し、回転させたまま引き抜くこと[骨中でドリリングを停止し、その状態から再度穿孔を開始すると、ドリル先に過度の負荷がかかり破損する恐れがある。穿孔を途中で止めた場合、ドリル先は骨にグリップされた状態(強く握られた状態)になる。]
3)穿孔再開を避けられない状態になった場合には、ドリルを回転させながらわずかに引き戻して穿孔を再開すること。その際、ドリル先に過負荷が生じるので注意が必要として行うこと[過負荷はドリル先破損の原因となる]。
4)ドリル先で穿孔中は適度な速さで行うこと。術者は骨質等を考慮し、過度の発熱による骨壊死や組織の損傷を避けるために、適宜、滅菌水を用いる等の手段で局部を冷却すること。
5)穿孔中は骨外のドリル先がぶれることのないようにドリリングすること[ドリル先を回転させた状態で曲げたり、曲げた状態で回転を再開したような場合は、骨内と骨外とのインターフェイスに過負荷が生じ破損の原因となる]。

*【使用上の注意】

1.重要な基本的注意

- プリオン病感染予防ガイドラインで示されているハイリスク手技に使用された場合、機器の使用後は最新のガイドライン及び添付文書の記載内容に従って機器を処理すること。
- 本品がプリオン病のリスクの高い患者、感染症患者への使用及びその汚染が疑われる場合には、製造販売業者又は貸与業者に連絡すること。
- クロイツフェルト・ヤコブ病 (CJD)、変異型 CJD、その他の伝達性海綿状脳症 (TSE) 及び関連する感染症の患者、又はその疑いのある患者に対しては、単回使用の機器を使用して治療することが推奨される。使用したすべての機器は、地域の手順やガイドラインに従って安全に廃棄すること。

DSS-K-262-03

2.不具合・有害事象

本品の使用により起こり得る不具合・有害事象は以下の通りである。
以下のような有害事象が現れた場合は、症状に応じて適切な処置を行うこと。

- (1) 重大な不具合
 - 1)器具もしくは器械の変形及び折損
- (2) 重大な有害事象
 - 1)血管損傷等
 - 2)一過性又は永続性の神経損傷等
 - 3)筋肉と線維組織の弛緩等
 - 4)骨折及びインプラントの緩み:高齢者の場合、骨粗鬆症化により術中の過度の力によりこれらの有害事象が生じうる可能性が高いので慎重に使用すること。
 - 5)破損片等の体内遺残
 - 6)骨壊死
 - 7)感染

【保管方法及び有効期間等】

1.保管方法

- (1)乾燥した清潔な場所で室温で保管すること。
- (2)保管中は器械が損傷しないように十分注意すること。

*【保守・点検に係る事項】

- 1.本品使用後は、できるだけ早く以下の手順に従って、洗浄、すすぎ等の汚染除去を行い、血液学的異物が付着していないことを目視で確認したのち、ジョイント部にオイル等を用いて注油し、【使用方法等】に示す滅菌方法及び滅菌条件にて滅菌を行い保管すること。
- 2.ジョイント部を持つ器械やドリルガイド等の中空構造を持つ器械については、隙間部に血塊等が残存しないよう、術中の使用毎に濯ぎを行い、術後速やかに入念な洗浄を実施すること。必要に応じて、手洗いや、超音波洗浄器を含めた各種洗浄器の使用、各種洗剤の併用をすること。
- 3.汚染除去に用いる洗剤は、医療用中性洗剤等、洗浄に適したものを選択し、適正な濃度で使用する。
- 4.洗浄装置(超音波洗浄装置等)を使用する時には、鋭利部同士が接触して損傷することがないように注意をすること。
- 5.超音波洗浄装置を使用するときは、洗浄時間、手順等は使用する装置の取扱説明書を遵守し、器具の隙間部に異物等がないことが確認できるまで洗浄すること。
- 6.洗浄後は腐食防止のために直ちに乾燥すること。
- 7.強アルカリ/強酸性洗剤・消毒剤は器具を腐食させる恐れがあるので、使用を避けること。洗浄にはやわらかいブラシ、スポンジ等を使用し、金属たわし、クレンザー(磨き粉)は器具の表面が損傷するので汚染除去及び洗浄時の使用はしないこと。
- 8.保守・点検に係る資料として「器具洗浄マニュアル」を準備しているので、必要に応じ請求すること。

*【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者の名称:ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社

URL: jn.jnj.co.jp